

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 守恒中 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

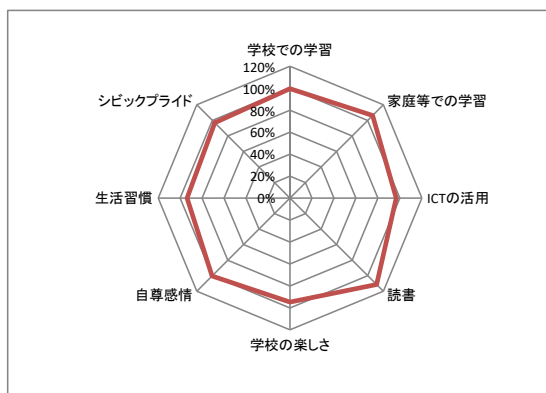
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均を上回っている。特に「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、その結果は突出している。一方で「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」の領域では、これからのさらなる力が求められる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	現代語で書かれた「竹取物語」の工夫点を文章の構成や展開、表現効果について根拠を答える問題	
	努力が必要な問題	インターネットの記事を読んで、意見と根拠など情報と情報の関係について問われる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全領域にわたって全国平均を上回っている。特に「図形」「関数」「データの活用」の領域では、その結果は突出している。一方で「数と式」の領域では、問題場面の考察の対象を明確に捉える問題において課題が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	箱ひげ図の箱に注目して、複数のデータの傾向を比較して捉え、数学的表現を用いて説明する問題	
	努力が必要な問題	自然数の意味を答えたり、問題場面における考察の対象を明確に捉える問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	全領域にわたって全国平均を上回っている。特に「読むこと」「書くこと」の領域では、その結果は突出している。一方で「聞くこと」の領域では、日常的话题について、必要な情報を正確に聞き取る問題において課題が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、未来表現の肯定文を答える問題	
	努力が必要な問題	日常的话题について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動では、授業時間以外での勉強に取り組む時間が長く、それが基礎的・基本的な学力の向上につながっていると考えられる。また、「学級の生徒との話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか」という問いに対して、約86%の生徒が肯定的な回答をしている。しかし、授業の中でICT機器を活用していると答えた割合が約45%と低く、教職員と生徒の認識に差が見られる。 ・「友達関係に満足している」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに対して、約90%の生徒が肯定的に回答している。 ・「読書が好きですか」という質問に対して、約74%の生徒が肯定的な回答をしている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基礎的・基本的な学力は身につけているため、発展的な思考力を問う問題を授業などで取り組んでいく。また、話し合い活動や学び合い活動を積極的に取入れ、授業の質の向上を目指す。さらに効果的なICTの活用を進める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

定期考査の計画表を見直し、自らの課題を設定して家庭学習に取り組むようにしている。保健だよりを発行し、基本的な生活習慣の重要性について考える機会を設けている。また保護者懇談会などを通して協力をお願いする。